



TITLE:

[教育活動]京都大学理学部

AUTHOR(S):

CITATION:

[教育活動]京都大学理学部. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告 2004, 2003年(平成15年): 46-46

ISSUE DATE:

2004-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172257>

RIGHT:

6.2 京都大学理学部

担当授業科目

1. 太陽物理学: 黒河 宏企
2. 基礎宇宙物理学 II. 電磁流体力学: 柴田 一成
3. 惑星物理学: 岩崎 恭輔
4. 物理科学 課題研究 S. 宇宙科学 S2 (太陽): 柴田 一成
平成 15 年度研究テーマ: Impulsive Flare の観測的及び理論的研究
5. 物理科学 課題演習 C. 宇宙物理 C3 (分光): 黒河 宏企
平成 15 年度演習テーマ: 70cm シーロスタット望遠鏡を用いた太陽磁場強度の測定
6. ポケットゼミ 活動する宇宙 (1 回生向け): 柴田 一成

(トピックス) 全学共通科目: 天体観測学実習の開始

天体観測に興味を持つ学生を対象に、飛騨天文台の望遠鏡と宿泊施設を利用して、惑星観測の実習指導を実施しました。最初に 65 cm 屈折望遠鏡の操作と CCD カメラの操作および、月、惑星の観測方法や解析方法の基本について講義を行いました。次に 65 cm 屈折望遠鏡と CCD カメラを用いて、月、土星の観測を行い、月面および土星の画像データを得ました。本年は火星の超大接近なので、火星の観測も行いました。観測解析実習では三つのグループに分かれ、第 1 のグループは、観測によって得られた月の画像データを測定することにより、月面上のクレーターの高さを計算する実習を行いました。第 2 のグループは、土星の画像データを測定することにより、土星の自転軸の天球上での方向を計算する実習を行いました。第 3 のグループは、以前に 65 cm 屈折望遠鏡によって観測された木星の画像データを測定することにより、木星の自転周期を求める実習を行いました。最終日には発表会を開き、得られた結果についてグループごとに報告を行うとともに、最終結果をレポートにまとめて提出してもらいました。また、実習の合間を利用して、ドームレス太陽望遠鏡や 60 cm 反射望遠鏡の見学を行いました。



(左) 65 cm 屈折望遠鏡での観測実習 (右) 発表会での報告の様子

(岩崎)